

会員からの発信

■ 仁田工美（宇宙・航空 or 電気電子部門受験希望） 「居心地の良い場所」

私の技術士のイメージは、余生を過ごすための拠り所として、定年退職した男性が技術士事務所を開くための御札、というかなりバイアスがかかったものであった。そして、技術士でないどころか、技術士試験に挑戦すらしたことがない。何回か技術士のサイトを拝見し、申し込みが既に終わってしまっていたからと言い訳をして、問題文を見てため息をつくだけ、の私が女性技術士の会の末席にこっそりいられるのは、前会長の木村さん、現会長の宮地さんはじめ女性技術士の会の皆さまの温かく広い度量のおかげである。



私と女性技術士の会との本格的な関りは、2014年のICWES ロサンゼルスではなかったか、と記憶している。女性技術士の会の方が企画されたシンポジウムでタイムキーパーを仰せつかり、会場をはいつくばって、タイムカードを表示する姿を気に入って頂け、また異国（古い言い方!?)の地での懇親は殊の外楽しく、一気に女性技術士の会の方々との距離が縮まった。そして、颯爽と楽しく活動されている皆さんとお付き合いさせて頂くようになって、技術士の現役感と自立ぶり、可愛らしさを微笑ましくも羨ましく思うようになり、技術士のイメージが一変した。そして、この気持ちの良い人たちとぜひこれからも活動出来たらと思った。

1989年に電機メーカーに入社以来、男性の多い職場での女性であるが故の孤独感から、労働組合での女性対策部での活動、社内でのネットワーク作り、NTT（電話交換手での女性の採用が早かった経緯で、女性の登用が非常に進んでおり、当時社内ネットワークが確立していた）や天文学会の社外メーリングコミュニティとの関わりで、手探りで普通に働くことを模索し始めた。

仕事をいったん止めての大学院での学びの前後で、女性技術士の会も構成団体の一つであるJNWES（日本女性技術者科学者ネットワーク）の前身であるINWES-Japanを知り、その関わりの中、日本女性技術者フォーラムに加入し、運営委員も経験させて頂き、東大のさつき会メーリングコミュニティへの参加など、気がつくと、女性技術者科学者の活動にどっぷりとはまっていた。



中途入社した現職では、JSTの助成金を得て、男女共同参画室（現ワークライフバランス推進室）の立ち上げも実施でき、指名員という緩い立場で引き続き社内での働き方改革に関わっている。そして、気がつくとJNWESの構成員を経て、今は理事（という名の使い走り）を仰せつかっている。

どの団体での活動も紆余曲折あるものの、時に厳しい先輩の助言を頂いたり、若い方の悩みに寄り添いつつ、この30年女性技術者の地位向上が遅々としていて数も増えないことを嘆いたりしながら、仕事に行き詰ったときだけでなく、順調な時こそ心の拠り所として大変ありがたい存在である。その中でも、女性技術士の会の方々は、資格に裏打ちされているからか、地に足を着き、職人氣質で、それぞれが自分の拘りに自信を持たれていて、いつしか、この方たちの本当の仲間になれたらどんなに良いだろう、と思うようになった。

自分の技術者としての変遷を振り返ると、最初の学生時代は高分子物性、最初の仕事は半導体検査装置であるSIMSの研究開発を経て、真空遮断器の研究開発、電動機の開発、大学院での高電圧、放電の研究を経て、現職場では、軌道上の帯電放電の研究、スペースデブリ・メテオロイドによる衝突破壊の研究、科学衛星のプロジェクトマネジメント、産業連携、そして今は宇宙機に関わる安全・信頼性、と技術者としてのキャリアデザインは如何なものか、一つの分野を極めてこそプロフェッショナルではないか、という思いもあり、技術士の方々をまぶしい思いで見ているという状態である。そこで、冒頭に戻ると、技術士として試験を受ける状況ではない、と思ひ至り、自分の不勉強を棚に上げて、ため息をついて、お茶を濁し、皆様のご厚意に感謝して、この居心地の良い場所にずっといるためにはどうしたらよいか、無い知恵を絞っている今日この頃である。